

月刊 やちまなこ

2015.10.15 発行

No. 215

10 月号

釧路湿原国立公園 塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）だより



湿原散歩

朝の気温も氷点下となり、初冠雪や初雪の便りが聞かれるところとなった。湿原を覆うヨシ原も茶色く色付き、湖面には紅葉が映し出され、傍には越冬のため飛来したオオハクチョウが羽を休めていた。湿原に初雪が降るころにはその数も増え、湖も賑やかになる。

コッタロ川と湿原のほとりから

184 10月のコッタロ湿原便り

コッタロ在住・中本 アキ子(文) 中本 民三(写真)

“天も地も洗い浄めて秋嵐”。台風21号くずれが10月2日に、続く8日は超大型の23号が急速に発達した爆弾低気圧となって北上し、24時間の缶詰状態をじっと我慢、「忍」の一字で耐えしのんだ生きもの達にとって、何一つ被害の無かったことは奇跡と云えましょう。一夜明けると、いつものように抜ける青空、一糸まとわぬ「コッタロ・ブルー」の中、丸一日欠席した丹頂一家4羽が彼方の山かげをかすめて飛んでくるではありませんか。又、庭のシマリス等には“リスチー、リスチー、リスチー”と3回声をかけてやると出て来て、“やあ、お久しぶり!!”とばかり、『お一人様用』のエサ箱に入るや否やヒマワリの実をホホいっぱいに詰め込んでおり“シマリスの貯食たけなわ冬仕度”。敷地内のいたる所からヒマワリ30本ひとかたまりの発芽が見られます。

一方、すでに裸木となっているワタドロ林に混在するクルミの木20本の黄葉も、あのすさまじい暴風雨が吹きちぎり、運び去ってしまい、見るも無残な全裸で恥しそうに立ちすくんでいますよ。

ところがこの大嵐のお陰で、今にも開きかけていた冬への扉が一旦閉じられ、束の間の暖秋がもたらされたのです。庭のツル池を常宿にしている鴨の群10羽余りは、丹頂一家4羽の噂と知ってか知らずか平気で過しているからたまりません。夜中に小競り合いがあるらしく双方の鳴き声がきこえ、“丹頂と共寝楽しむ秋の鴨”とでも云いましょうか。

これより少し前、日頃見かけない水鳥が、庭池の一つに舞降りた後、丹頂一家のいる池の方へ移動し、そこで一時間余りを過している間、パチリパチリと撮らせて頂き、非常に珍しい種であることがわかりました。調べてみると、写真の個体は、チドリ目シギ科で18cmの大きさ。アカエリヒレアシシギの幼鳥でした。彼等はユーラシア、北米大陸の寒帯域広く繁殖している旅鳥で、面白いのはディスプレイを♀が、抱卵を♂のみが行うと云うこと。海面を漂う流れ藻やプランクトン、水生生物を食べて遊泳が得意であること云々。我家のツル池にも似た様なエサとなる物があったのでしょうか。この風変わりな迷鳥の特徴的な面構えを御覧下さい。成鳥になるにつれて首のまわりが赤色に生え変わるのも不思議でなりませんね。



湿原の住人たち その175

アズキナシ

湿原周辺で見られるアズキナシに今年も赤い実が見られるようになりました。写真は、センターから徒歩5分の元村キャンプ場にある木で、湖岸へ続く道の終点にあります。5～6月にナナカマドに似た白い小花がたくさん咲き、秋に実になります。紫黒色の枝にある白色の点が稗の目盛りのように見えることからハカリノメとも呼ばれ、漢字では「稗の目」と書きます。青空に映える赤い実は、野鳥にとっても目につくようで、いつの間にかなくなってしまうです。



タンチョウイラスト展開催中。

10月25日まで、塘路湖エコミュージアムセンターレクチャールームに於いて、鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ主催の「第21回タンチョウイラスト巡回展」を開催中です。道東に住む小・中学生の作品335点を展示しています。感性豊かな子供たちが描いたタンチョウをぜひご覧ください。入場無料です。

塘路湖畔歩道で楽しむ 紅葉狩りと鳥見。

塘路湖畔歩道がオープンして1年が過ぎました。塘路湖を眺めながら歩けるので、10～11月にかけては、紅葉と鳥見がオススメです。緑色から黄色、赤色に色づいた湖岸の広葉樹が、今はオレンジ色から褐色へとかわりつつあります。これから落葉針葉樹のカラマツの黄葉も楽しめます。陽射しで輝くヨシやスゲのグラデーションも見逃せません。鳥見は、冬の使者オオハクチョウも飛来し、渡りの途中で羽を休めるガンやカモの仲間が増えてきます。野生なので必ずいるわけではありませんが、南へ帰る鳥（オシドリ・カルガモなど）や北から渡ってくる鳥（ヒシクイ・オオハクチョウなど）が英気を養う姿が見られるでしょう。

つぼっちのとうろうろうろ日記 Vol.82 「塘路湖はいつ生まれたんだろう!？」

秋空の中先日塘路湖をのんびりと散策しながら、塘路湖はいつ頃生まれたのかと考えました。

一般的に塘路湖は昔釧路湿原が海だった頃の名残“海跡湖”で、4000～5000年ぐらい前にできたとされています。確かにそうですが、塘路湖面の高さは海拔6m～6.5mで最大水深は約7m。大正期には水深9mと記録されています。つまり海水面よりも塘路湖底の方が低いのです。上流から塘路湖へ水の流入が途絶えたとしても、釧路川の河床の方が数mも高い為、湖水の全ては海へと流れず溜まる事でしょう。塘路湖の水深から考えると海水の流入を待つまでもなく、元々水がたまっていた可能性があるのです。

“海跡湖”とされる塘路湖ですが、それ以前に塘路湖の原型となる湖か沼があったのかもしれない。

坪岡 始（標茶町郷土館学芸員）

10がつ1にち

ばしよ 塘路湖

意外と古い湖かも知れない塘路湖。
現在、ワカサギ漁が盛んに行われています。



10・11月の行事カレンダー

各行事とも事前の申込が必要です

ムックリ（口琴）を作ろう

〔日時〕 11/7 (土) 13:00~15:00

〔定員・参加料〕 15名・300円

〔集合場所〕 塘路湖エコミュージアムセンター

[illegible]

ザリガニウォッチング2～ニホンザリガニ編～ 「日時」 10/18 (日) 10:00～12:00

[illegible]

塘路湖・シラルトロ湖・コッタロ湿原周辺の自然情報

【植物】(9/20)コガネギク、ナギナタコウジュ、ミヤマヤブタバコ、ヤクシソウ、エゾトリカブト、ヤマハハコ、シラヤマギク、サラシナショウマ、サワシバの実、ホオノキの実 (9/22)ヒシの実 (9/30)ミゾソバ、オオウバユリの実、コウライテンナンショウの実、オオハンゴンソウ、タウコギ、アメリカセンダングサ (10/3)フッキソウの実、ヤマブドウの実、アズキナシの実、ツルウメモドキの実 (10/4)アラゲハンゴンソウ、ヒメジョオン、ハコベ

【鳥】(9/16)ヒシクイ (9/20)ミヤマカケス、ハジロカイツブリ (10/3)マガモ、ハクセキレイ、アオサギ、ユリカモメ、オシドリ (10/7)カルガモ (10/13)ノスリ、チュウヒ、オオハクチョウ9羽(今季初確認)、オジロワシ

【その他】(9/20)ミカドフキバツタ、モンズズメバチ、ルリボシヤンマ (9/21)シマヘビ (9/22)エゾリス (10/4)ユキムシ、エゾシカ (10/5)ミンクの死骸、キタキツネ (10/6)キトンボ、エルタテハ (10/9)雌阿寒岳初冠雪 (10/14)標茶町の最低気温氷点下2.5度を記録

- 日没時刻は16時台です。車を運転される方は、早め点灯とスピードダウンで安全運転を心がけ、エシカの飛び出しに気を付けてください。
- 最低気温が氷点下一桁を記録するようになりました。一日の寒暖差が大きい時季なので、早朝散策の際は防寒対策をしてお出かけください。

◆ 日出・日入時間 10/15(5:35, 16:41). 10/31(5:54, 16:17). 11/14(6:12, 16:01)



オオウバユリ

釧路湿原国立公園

塘路湖エコミュージアムセンター あるこつと

☎088-2264 北海道川上郡標茶町塘路原野

TEL:015-487-3003 FAX:015-487-3004

E-mail: emc@hokkai.or.jp

開館時間 10:00～17:00 (11月～3月は16:00まで)

休館日:毎週水曜日 12月29日～1月3日 入館無料